

特許協力条約

REC'D 17 NOV 2005

PCT

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
〔PCT36 条及び PCT 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 G277TJ	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/016915	国際出願日 (日.月.年) 09.11.2004	優先日 (日.月.年) 10.11.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ D04H3/00		
出願人 (氏名又は名称) 帝人株式会社		

1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で 7 ページである。

振正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の單一性の欠如
 第 V 欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 02.05.2005	国際予備審査報告を作成した日 02.11.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 平井 裕彰
	4S 9633
	電話番号 03-3581-1101 内線 3474

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

國際公開 (PCT規則12.4(a))

國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT第14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 1-4、8-12、14-32 ページ、出願時に提出されたもの

第 5-7、13 ページ*、06.09.2005 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 3-36、38-47 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT第19条の規定に基づき補正されたもの

第 1、37 項*、06.09.2005 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 1/2-2/2 ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ

請求の範囲 第 2 項

図面 第 _____ ページ/図

配列表（具体的に記載すること） _____

配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ

請求の範囲 第 _____ 項

図面 第 _____ ページ/図

配列表（具体的に記載すること） _____

配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 <u>15-27, 32-47</u>	有
	請求の範囲 <u>1, 3-14, 28-31</u>	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 <u>37-47</u>	有
	請求の範囲 <u>1, 3-36</u>	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 <u>1, 3-47</u>	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : JP 1-282325 A
 文献2 : JP 2002-285457 A
 文献3 : WO 98/38140 A
 文献4 : JP 2646140 B
 文献5 : JP 5-195396 A

・請求の範囲1、3-14、28-31について：文献1-3

文献1-3には、纖維径の小さな炭素纖維を用いてなり、特定の目付等を有する不織布が記載されている（各特許請求の範囲）。

また、文献1-3には、纖維径を小さくすることの必要性に関する記載もあり、文献1-3に記載された発明において、具体的に開示される纖維径よりも小さな値を示す纖維により不織布を構成することは、当業者が容易になし得ることであり、その効果も、格別なものがあるとはいえない。

なお、各請求の範囲を記載を見る限り、纖維径を小さくするために、特別な手段を採用しているとはいえない。

・請求の範囲15-27、32-36について：文献1-5

文献4、5にも記載されているように、

（文献4：第3欄第11-15行

文献5：0001）

請求の範囲15等で規定する用途は、炭素纖維不織布の周知の用途にすぎず、文献1-3に記載された発明における炭素纖維不織布を、請求の範囲15等で規定する用途に単に適用することは、当業者が容易になし得ることであり、その効果も、格別なものがあるとはいえない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

・請求の範囲 3 7 - 4 7 について

請求の範囲 3 7 における (1) - (3) の工程を採用して、炭素繊維不織布を製造することについては、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって、自明なものでもない。